

■主な取組

- 1 デニムプロジェクト
- 2 ワインプロジェクト
- 3 道の駅等のネットワーク化
- 4 地域包括ケアシステムの構築
- 5 【新】備後圏域PR事業～BINGOフェスティバル～

2015年度(平成27年度) 連携事業報告及び2016年度(平成28年度)の取組

産業: 圏域全体の経済成長のけん引 (2) 中小企業事業者等への支援: 地域の産業集積による競争力の向上

事業名 備後圏域デニムプロジェクト

1 概要

備後圏域の地域資源であり、世界に誇る「デニム」をより効果的に発信することで、備後圏域及び各市町の知名度や圏域住民の愛着を高めるとともに、圏域内デニム関連企業の知名度向上や経済活動の活性化へとつなげる。また、発信にあたっては、関連企業のつながりを強化し、地域一体となった情報発信を行うとともに、企業ニーズを反映した販路開拓支援等の事業を展開するもの。

2 取組内容

- 基礎調査
 - ・デニム関連企業へのヒアリングや関係データの収集などの基礎調査を行った。
- 情報発信
 - 「デニムマップの作成」
 - ・備後圏域におけるデニム関連組合等の協力により、デニムに関する歴史や関連企業の集積状況などを掲載したBINGOデニムマップの作成に取り組んだ。
- 機運の醸成
 - 「デニム座談会の実施」
 - ・福山市及び井原市におけるデニム関連企業7社と行政関係者により、情報共有や今後の展開について意見交換を行うデニム座談会を開催した。

3 成果

- 基礎調査
 - ・基礎調査によって、次のことが分かった。
 - ・世界の有名ブランドと取引している企業が多い。
 - ・日本産デニムは、高価格帯の商品(ジーンズなど)に使用されることが多い。
 - ・国内の市場は縮小しており、海外への販路拡大をめざす傾向がある。
 - ・関連企業の共通課題として、デニム産地一体となった「情報発信の強化」がある。
- 情報発信
 - ・関連組合等と協力して「BINGOデニムマップ」を作成。
 - ・今後はイベントでの掲示などで圏域内外に周知していく。
- 機運の醸成
 - ・関連企業の機運の醸成(ともにデニム産地をPRしていく合意)や今後のアイデアについての意見交換を行うことができた。

4 課題

- 情報発信強化に向けた具体的事業の構築
 - ・企業と行政で情報共有と方向性の確認は行うことができたが、具体的な事業の構築・実施により、更に連携を深める必要がある。
- 共通の発信名称の決定
 - ・デニムにおける歴史的背景により、備後(福山市など)・備中(井原市など)の区分が存在するため、整理する必要がある。
- 児島(倉敷)との住み分け・連携
 - ・国産“ジーンズ”発祥の地と呼ばれる児島(倉敷)との、情報発信の内容の住み分けや連携を考察する必要がある。



【企業ヒアリング】



【デニム座談会】

取組項目		役割分担 ◎:主体 ○:協力								産	学	金	民
		自治体											
		福	三	尾	府	世	神	笠	井				
2015	1 基礎調査	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○			
	2 BINGOデニムマップ	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○			
	3 デニム座談会	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○			
2016	1 備後圏域のデニムPR	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○			
	2 販路開拓支援	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○			
	3 連携体制の構築	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○			

【世界のデニム生地市場】(推定)

地域区分	主要国(企業)	生産量(億ヤード/年)	推定シェア
海外	トルコ(イスコ)	3.0	97%
	中国	3.0~4.0	
	その他	約22.0	
	海外合計	約29.0	
日本	クラボウ	0.30	3%
	日清紡	0.15	
	カイハラ	0.42	
	日本合計	0.87	
世界合計		約30.0	100%

※1ヤード=0.9144m

資料:ダイセン株式会社「デニムの耳」及び倉敷ファッションセンター「世界のジーンズマーケット」から作成

【アメリカにおけるブルー・デニム輸入量】

	2010年	2011年
総輸入量	24兆5741億5800万㎡	17兆1958億3800万㎡
うち、日本	1億8,000万㎡	1億7,100万㎡

→総輸入量が約30%減少しているのに対し、日本からの輸入量は5%の減少に留まっている。

資料:日本貿易振興機構「米国におけるデニム市場」(米国商務省繊維衣料品局のデータによる)から作成

5 2016年度の取組

- 備後圏域のデニムPR
 - ・デニム産地として国内外への情報発信を強化(デニム関連企業と連携したイベントの実施 等)
 - ・首都圏等でのPR(デニムマップ等の活用)
- 販路開拓支援
 - ・バイヤーツアーの実施
- デニム事業者との連携体制(プラットフォーム)の構築
 - ・座談会の定期開催
 - (海外市場を見据えた研究(情報発信方法等)) など
- 児島(倉敷)との連携検討
 - ・PR方法の住み分けや連携内容の検討(高梁川流域圏との意見交換)

■関連事業
 ○ふるさと応援奨励事業【神石高原町】
 ・ふるさと納税の返礼品として、デニムを使ったグッズ等の開発
 ○織物研修会【井原市】

2015年度(平成27年度) 連携事業報告及び2016年度(平成28年度)の取組

産業: 圏域全体の経済成長のけん引(3) 第一次産業の活性化: 6次産業化の推進

事業名	備後圏域 ワインプロジェクト
------------	-----------------------

1 概要
 地域資源を活用した商品であるワイン等の果実酒の価値を高め、地域経済を活性化するため、行政・企業・金融機関・大学が連携した情報発信の強化、事業参入促進やブランド構築のための支援体制を構築するもの。

2 取組内容

- 1 基礎調査**
 ・ワイン醸造者、ぶどう農家などへのヒアリングや関係データの収集などの基礎調査を行った。
- 2 環境整備**
 「特区の拡大」
 酒類製造免許に係る特区制度を申請した。(1月26日申請)
 ・特区概要
 地域の特産物を使用して果実酒(ワイン等)やリキュールを製造する場合、酒類製造免許に係る最低製造数量基準: 6キロリットルを果実酒: 2キロリットル, リキュール: 1キロリットルに引き下げるもの。
 ・特区範囲
 福山市, 三原市, 尾道市, 府中市, 神石高原町, 笠岡市, 井原市 (世羅町は認定済)
- 3 情報発信の強化**
 「ワイン列車」
 ・福塩線(福山～府中)を貸し切り, 電車内で備後産のワインを楽しむイベントを開催した。



【ワイン列車の様子】

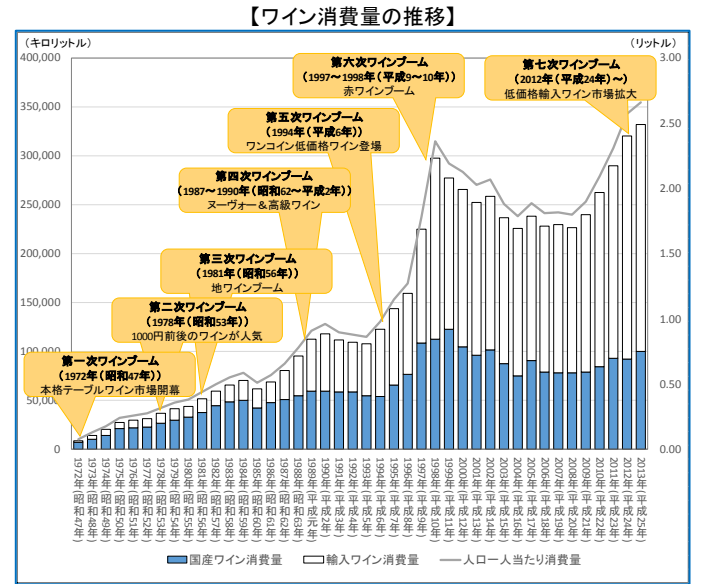
3 成果

- 1 基礎調査**
 基礎調査によって、次のことが分かった。
 ・国内におけるワインの消費量は増加傾向。
 ・国産ワインの消費も増加傾向。海外での評価が高いものもある。
 ・良いワインを生み出すためには、地域の特性に合ったぶどう栽培等の技術や醸造技術の向上が必要。
 ・ぶどう生産者の高齢化が問題となっている。 など
- 2 環境整備**
 ・特区の認定(3月30日認定)
 ・ワイン関連特区の中で、県境を越えた市町共同の認定は全国初。
 ・複数の市町が特区対象範囲のため、ぶどうなどの原材料が不足した場合などの相互補完が可能。
- 3 情報発信の強化(ワイン列車)**
 ・参加者数: 80人(男性: 37 女性: 43)
 ・提供者: ワイン(世羅町, 福山市)
 備後圏域の農水産物を活用したオリジナル弁当「評価(実施後のアンケートから)」
 ・「毎年実施してほしい」「このようなイベントを増やしてほしい」など
 ・ツアーへの満足度100%(満足できなかったという回答は無し)

4 課題

- ワイン文化の醸成
 ・備後におけるワインの認知度等は低いため、ワインを楽しむといったワイン文化の醸成を商工会議所のプロジェクトと連携しながら行う必要がある。
- ワイン醸造を希望する事業者等への支援強化
 ・ぶどう栽培, ワイン醸造技術, 事業計画策定など, ワインを事業として展開していく際に必要な知識を習得するための支援が必要である。
- 特区の連携・活用促進
 ・特区を新たに取得した7市町の特区と, 世羅町の有する特区と連携し, 一体的に特区の活用促進を行う必要がある。(説明会の開催等)

取組項目		自治体							産学金民				
		福	三	尾	府	世	神	笠	井	産	学	金	民
2015	1 基礎調査	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	2 特区の拡大	◎	○	○	○	○	○	○	○	○			
	3 ワイン列車	◎					○				○	○	
2016	1 (仮称)ワインアカデミー	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2 支援体制の構築	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3 情報発信強化	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○




※キリン株式会社「ワイン参考資料2015」より作成

5 2016年度の取組

- (仮称)ワインアカデミーの開催
 ・ワインリーや大学等と連携して, ワイン醸造等に必要知識を習得する場を提供(年3回程度)
- 金融機関等と連携した支援体制の構築
 ・事業計画策定や資金調達等の支援体制の確立に向けた検討
 ・特区活用に係る説明会の開催 等
- 備後産ワインの情報発信強化
 ・各種イベントへの出店や広報活動の強化
 ・第2回ワイン列車の開催

2015年度(平成27年度)連携事業報告及び2016年度(平成28年度)の取組

住民サービス:圏域全体の生活関連機能サービスの向上(3)地域活性化の推進:農林水産物を活用した地域活性化

事業名	
------------	---

1 概要

備後圏域内にある道の駅等のネットワーク化により、地域活性化につながる仕組みの構築をめざすもの。道の駅の3つの機能(①休憩機能、②情報発信機能、③地域連携機能)を活かす中で、ガイドマップ・イベントカレンダーなど、道の駅等の間をつなぐ情報発信や、圏域の地域資源を活用した共同商品の開発・販売などに取り組むもの。

取組項目		役割分担 ◎:主体 ○:協力								産	学	金	民
		自治体											
		福	三	尾	府	世	神	笠	井				
2015	1 基礎調査	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎		○
	2 駅長会議	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎		○
	3 改善発想	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎		○
2016	1 販路拡大	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎			○
	2 スタンプラリーの開催	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎			○
	3 ルートマップの作成	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎			○

2 取組内容

○基礎調査
福山大学と連携して、他地域の事例研究や現地アンケート、Webアンケートを実施した。現地アンケートは福山大学の学生の協力を得て実施した。

○駅長会議
道の駅のネットワーク化の進め方や基礎調査の実施に係る駅長会議を開催し、意見交換した。

○改善発想
現地アンケートに参加した学生による道の駅等の改善発想を行い、試行案を選定した。また、試行案について、現地でアンケート調査を実施し、道の駅等の利用者ニーズを確認した。



3 成果

○基礎調査
基礎調査によって、次のことが分かった。
・利用者は、50才以上が60%以上を占めており、リピーターが45%、初めての利用者が17.5%であった。また、利用者の約4割は圏域外であった。
・圏域の道の駅に対しては高評価であり、約9割の人が「また来よう」と思っている(駐車場・トイレ等の環境整備や接客などから)。
・道の駅は観光目的と成り得る拠点施設であり、観光案内機能等を高めれば周遊観光の促進につながる事が期待できる。
・利用者からは、「地域の産直市等と連携した特産物のブランド化」「地域の特色ある料理の充実」「災害時の拠点機能の強化」「食に関連するイベント」などを求める声が多かった。

○駅長会議
同じ生活圏に所在する道の駅等の駅長が集まり意見交換することで、経営課題の共有や方向性の確認ができた。

○改善発想
道の駅の改善発想会と現地アンケート調査から、学生が次の2案を提案し、試行的に実施。
・道の駅等の合同カレンダーによるイベント情報等の発信
・チラシによる商品の効果的な情報発信

4 課題

○道の駅の更なる魅力向上
・特産品の販路拡大により来場者の増加を図るため、企業や道の駅同士が連携した取組が必要

○周辺観光地を含めた地域全体の活性化
・来場者の多くが道の駅のみを利用しているため、周辺の観光地を含めた、道の駅間を周遊する仕組みが必要

○防災拠点としての機能の在り方について研究が必要



5 2016年度の取組

○特産品の販路拡大
・大手百貨店と連携して、道の駅等で販売されている商品をインターネット上で販売するほか、新メニューの考案・試作、共通のロゴ・パッケージデザインの作成等を行う。
・沿岸部と山間部の道の駅の特産品を相互に販売するイベントを行う

○スタンプラリーの開催
・地域情報誌と連携してスタンプラリーを開催し、若年層やファミリー層を道の駅等に呼び込む。

○道の駅を結ぶルートマップの作成
・備後圏域に所在する道の駅等のルートマップを作成し、来場者の周遊を促進する。改善発想案を盛り込んだ内容とする。

2015年度(平成27年度)連携事業報告及び2016年度(平成28年度)の取組

住民サービス:圏域全体の生活関連機能サービスの向上 (1)医療や福祉サービスの充実:高齢者や障がい者等の福祉の充実

事業名 地域包括ケアシステムの構築

1 概要

高齢者が住み慣れた地域・住まいで安心して暮らし続けることをめざした「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、各市町で蓄積してきた知識やノウハウ等を生かし、医療・介護連携や金融機関等と連携した認知症対策等に取り組むもの。

2 取組内容

- 在宅医療・医療介護連携の推進**
 - 地域包括ケア資源マップの拡大
 - ・関係施設や事業者の場所や内容等を記載したマップについて、福山市で既に構築しているものを圏域へ拡大。
- 認知症対策の推進**
 - 市民後見人養成講座の拡大
 - ・福山市で実施している「市民後見人養成講座」を圏域に拡大するため、各市町の関係者が講座に参加し、ノウハウの共有を図った。
 - 徘徊SOSネットワークの強化
 - ・福山市、尾道市、府中市で既に構築しているネットワークを圏域に広げるため、他市町との情報共有等、構築に向けた取組を進めた。
- 介護事業等の適正運営とサービスの質の向上**
 - 事業者向け説明会
 - ・有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅運営事業者説明会
 - ・感染症予防対策に係る説明会
 - 事業者向け研修会
 - ・虐待防止に関する研修
 - ・介護サービス事業者集団指導研修
- 地域包括ケアシステムの普及啓発**
 - チャレンジフォーラム
 - ・専門家の講演を始め、先進事例や圏域内の活動を共有する「びんご圏域地域包括ケア チャレンジフォーラム」を開催した。

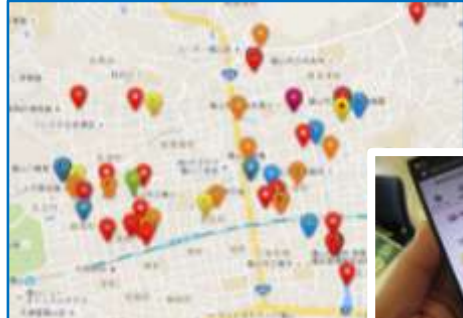
3 成果

- ノウハウ等の共有による基盤づくり
「備後圏域地域包括ケア資源マップ」:医療・介護等の施設情報を掲載
・掲載事業所:約2,800施設
・施設種類や所在地などで検索可能
・PC、スマートフォン等で使用可能
・今後、掲載事業所の充実を図る(生活支援サービス関連)
 - 「市民後見人養成講座の拡大に向けた準備」
・圏域全体で地域の担い手を育成していくため、福山市が実施する市民後見人養成講座のノウハウ等を圏域内で共有した。
 - 関係者の意識向上、連携促進
・チャレンジフォーラムや研修会の開催により、地域包括ケアシステムにかかる関係者の意識向上、連携の促進を図ることができた。
・金融機関(広島銀行、中国銀行)と協定を締結した(2016年4月1日)。
- 「自助」「公助」などの要素を高めながら、多様な主体が連携可能な基盤が確立されつつある。また、金融機関など、新たな関係者との連携が圏域全体のネットワークの強化・拡大につながっている。

4 課題

- 情報発信の強化
・地域包括ケアシステムについて、理解している事業者や住民は多くない。そのため、継続した普及啓発が必要である。また、備後圏域地域包括ケア資源マップなど、ツールの活用を増やすためのPR強化も必要である。
- 広域化に向けた具体的取組の実施
・徘徊SOSネットワークや市民後見人養成講座など、先行市町の持つノウハウ共有後、具体的実施に移行する必要がある。
- 事業者や市民団体等の意識・モチベーション向上
・引き続き、事業者や市民団体等の地域全体への意識や活動におけるモチベーションの向上を図り、効果的な連携につなげることが必要である。

取組項目		自治体								産	学	金	民
		福	三	尾	府	世	神	笠	井				
2015	1 医療介護連携	◎	○	○	○	○	○	○	○	○			
	2 認知症対策	◎	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	3 介護サービスの質向上	◎	○	○	○	○	○	○	○	○			
	4 包括ケアの普及啓発	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2016	1 普及啓発	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2 市民後見人養成講座	◎	○	○	○	○	○	○	○				
	3 資源マップの充実	◎	○	○	○	○	○	○	○	○			
	4 金融機関との連携	◎	○	○	○	○	○	○	○				○



【備後圏域 地域包括ケア資源マップ】



【びんご圏域 地域包括ケア チャレンジフォーラム】

5 2016年度の取組

- 地域包括ケアシステムの普及啓発
・関係団体や圏域住民等を対象に、講演会やパネルディスカッションを行う。
- 市民後見人養成講座の拡大
・福山市の「市民後見人養成講座」を圏域住民も受講可能とし、圏域全体で地域人材の育成に取り組む。
- 備後圏域地域包括ケア資源マップの充実
・登録情報の更新や掲載項目等の充実を図るとともに、圏域住民や関係団体の活用を促進する。
- 金融機関(広島銀行・中国銀行)との連携事業の実施など

2016年度(平成28年度) 連携事業

住民サービス:圏域全体の生活関連機能サービスの向上(3)地域活性化の推進:農林水産物を活用した地域活性化

事業名 【新】 備後圏域PR事業～BINGOフェスティバル～

1 概要

備後圏域の地域資源等を圏域内外へ発信するイベント「BINGOフェスティバル」を開催することで、圏域の知名度を向上させるとともに、圏域内の行政・企業・市民等の一体感を醸成するもの。

開催にあたっては、各市町の既存イベントと連携するものとし、年2回程度開催する。(次年度以降は各市町持ち回り)

2 事業内容

「2016年度(平成28年度):福山市開催」

- ・年2回程度開催。
- ・7月:福山市市制施行100周年記念イベント「第2回 福山博覧会」の中で開催する。
- ・9～11月頃:首都圏において、福山市東京事務所等と連携して開催する。

「7月開催:BINGOフェスティバル概要」 ※福山市市制施行100周年記念イベント「第2回 福山博覧会」の中で開催

○日時
2016年(平成28年)7月2日(土)～3日(日)
11:00～18:00(2日間ともに)

○場所
福山市 中央公園・まなびの館ローズコム(福山市霞町)

- 内容
- 「備後のグルメコーナー」(中央公園内)
 - ・備後圏域の特産品を集めた飲食コーナー(世羅産ワイン, 神石牛ステーキ など)
 - 「ステージPR」(中央公園ステージ:屋外)
 - ・ゆるキャラを活用した備後圏域及び各市町のPR など
 - 「備後の魅力発信」(まなびの館ローズコム内)
 - ・備後圏域の取組や観光資源等の紹介(ポスター, パンフレット, PR動画上映 など)

※首都圏での開催については、瀬戸内フェア等との連携を検討。
○参考「瀬戸内フェア2015」日にち:9月12日 場所:東京タワー
・福山市, 岡山市, 倉敷市, 呉市などが参加

取組項目	役割分担 ◎:主体 ○:協力										
	自治体							産	学	金	民
	福	三	尾	府	世	神	笠				
1 BINGOフェスティバル(福山市)	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 BINGOフェスティバル(首都圏)	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



※写真はイメージ



など